

## 令和7年度 東京都立東久留米特別支援学校 学校経営報告

東京都立東久留米特別支援学校長 菊地 直樹

本校は、東京都特別支援教育推進計画（第二第期）の基本理念「共生社会の実現に向けて、障害のある幼児・児童・生徒の自立を目指し、一人ひとりの能力を最大限に伸ばして、社会に参加・貢献できる人間を育成」の具現化を図るとともに、社会に出る前の高等部として、将来にわたって、豊かな生活を送るための基礎となる力を育てるため、目指す学校を「くらす力 働く力 関わる力を育てる学校」を目指した。

生徒自身が目指す将来に向かって主体的に学ぶことができるように、教職員の専門性を高め、一人一人に応じた適切な指導・支援の充実を図る学校経営計画を立て、学校運営連絡協議会等で進捗状況の報告し、指導助言を受け、改善を行いながら計画を遂行した。

## I 今年度の重点目標と方策（数値等目標及び評価）

今年度の取組目標と方策（数値等目標）について、学校評価アンケートや平素から取り組んでいる数値動向の集計等を踏まえ、学校運営連絡協議会等で報告した結果を「最終報告」の「達成状況」として、◎：十分に達成、○概ね達成、△未達成の3段階で評価を行った。

## 1 学校運営

	重点項目と方策	具体的方策・数値等目標	評価	コメント
1 学 校 運 営	① 生徒の人権に配慮した指導の充実・人権感覚の醸成	(ア) 人権研修3回以上、 (イ) いじめ調査2回以上 (ウ) 体罰調査1回以上	◎ ◎ ◎	
	② コンプライアンスの遵守の徹底	(ア) 研修実施2回以上 (イ) 個人情報管理・授受簿の確認と点検 学期始め終り計6回以上 結果、サービス事故なし	◎ ◎ ◎	
	③ 校務分掌業務等の教職員の役割の明確化及び主幹教諭・主任教諭による進行管理による確実な実行（人材育成）	(ア) 主幹：進行管理（4半期見直し） (イ) 主任：計画実施（マニュアル活用） (ウ) 個人：スケジュールリング 結果、未実施なし・遅延なし	◎ ◎ ○ ◎	分掌業務マニュアルを整えた 個人スケジュールは今後の課題
	④ C4th、ICT 機器、TAIMS 端末の適正な活用と効率化	(ア) 情報集積・活用・管理システム構築 (イ) 全授業の指導案・教材の共有化	◎ ○	教材共有フォルダ作成し指導案・教材の収集を始めた
	⑤ ライフワークバランスの実現に向けた組織的な推進	(ア) 時間外勤務45時間以上20%以下 (イ) 男性育児休暇希望者取得100%	◎ ◎	

## 2 学習指導

	重点項目と方策	具体的方策・数値等目標	評価	コメント
2 学 習	① 個々の生徒の的確な実態把握と課題設定、適切な指導の手立ての設定	(ア) アセスメント実施と活用：1年生100% (イ) アセスメント研修実施 (ウ) 個別指導計画で該当項目の学校評価満足度85%以上	◎ ◎ ◎	

指導	② 年間指導計画（単元内容）のカリキュラム・マネジメント	(ア) 学習指導要領の指導内容との整合性の把握と年間指導計画の見直し	○	整合性確認に取掛る見直しは今後の課題
	③ 作業学習、職業に関する専門教科での知識技能を生かした表現力、学びに向かう力の育成	(ア) 外部販売・活動等 130 回 (イ) 事後評価で肯定的評価 80%以上	◎ ◎	
	④ 普通科職業類型の改善	(ア) 職業類型の目標・指導内容・時数改善 (イ) 次年度の年間指導計画作成 9月まで	◎ ◎	
	⑤ 年間 1 回以上研究（研鑽）授業を実施	(ア) 研鑽授業 MT 担当教員全員実施 (イ) 外部専門家/特別専門講師を活用したコンサルテーションの推進 (ウ) 研修受講者（教師道場、大学院派遣等）による若手教員への指導助言 (エ) 一人 1 台端末の利活用 校内研修実施	○ ◎ ◎ ◎	未実施者あり
	⑥ キャリア教育の実践	(ア) キャリア教育の実施 両科各学年でケーススタディ実施	○	ケーススタディ実施 今後、面談・授業に効果的に生かす
	⑦ 主権者・消費者教育の推進	(ア)家庭科法教育等の実施	◎	
	⑧ 生徒の総合的な体力向上を目指し、身体機能及び基礎体力向上に向けた指導の充実	(ア) 昨年度の記録を活用した東京都統一体力テスト実施 全生徒	◎	
	⑨ 図書環境の整備	(ア)蔵書の充実	○	生徒ニーズから漫画等購入 継続課題

### 3 生活指導

	重点項目と方策	具体的方策・数値等目標	評価	コメント
3 生活 指導	① 生徒の相談を聞き取り、安心して過ごせる学校づくりの推進 自殺やトラブル等未然防止対策の徹底	(ア) 両科 1 年生、スクールカウンセラーまたは外部専門家（心理士等）活用 100% (イ) 対象生徒の心理士活用・支援会議実施 100% 実施数/必要対象生徒数	◎ ◎	
	② 生徒の変化を早期発見、組織的対応、健全育成の実施。 SNS による事故の防止。	(ア) アンケート実施 全生徒（3 年間保存） (イ) セーフティ教室実施 (ウ) 対象生徒支援会議実施 100% (エ) 生徒の SNS の保護者確認協力依頼発信 5 回以上	◎ ◎ ◎ ◎	
	③ 地域と連携した危機管理マニュアルに基づく災害や防犯等様々な危機管理体制の整備	(ア) 避難訓練実施 11 回 (イ) 総合防災訓練実施 1 回 (ウ) 防災推進委員会実施 2 回	◎ ◎ ◎	
	④ 食物アレルギー事故なし	(ア) 食物アレルギー研修 2 回及び校外学習前確認の実施	◎	
	⑤ 医療的ケアが必要な生徒に対し安全で適切な支援実施	(ア) 医ケア委員会 4 回 (イ) 指導医検診 2 回 (ウ) 対応訓練 2 回	◎ ◎ ◎	
	⑥ 日常生活能力及び生活習慣の	(ア) 個別指導計画で日常生活能力の向上が	◎	

	指導の充実 (ADL、予定理解、係活動等)	見られた 100% (イ) 生徒評価・保護者満足評価 85%以上	◎	
--	-----------------------	-------------------------------------	---	--

#### 4 進路指導

	重点項目と方策	具体的方策・数値等目標	評価	コメント
4 進 路 指 導	① 進路選択・進路決定までの3年間の進路指導ガイダンスの充実	(ア) 教員向け1回 保護者向け2回以上 (イ) 学校評価理解・満足度 80%以上	◎ ◎	
	② 進路行事後の意味づけ、価値づけ、重みづけの記録の蓄積と進路選択時の活用	(ア) 進路個人ファイル (キャリアパスポート) の活用 100%	○	進路個人ファイルを見直した 次年度本格実施・検証
	③ 社会参加とのつながりを生徒自身が意識し学ぶ指導の実践	(ア) 2, 3 年作業日誌、職業に関する専門教科日誌の改善: 希望進路先 (実習先)・実習まで取り組む課題表記・評価記入	◎	日誌改善を行った。次年度本格実施
	④ 体験・記録・評価表を活用した進路選択 進路実現	(ア) 希望する進路実現 100%	○	94%達成 施設入所等未定(年度末時点)

#### 5 特別活動

	重点項目と方策	具体的方策・数値等目標	評価	コメント
5 特 別 活 動	① 学校行事等での生徒の主体的な活動の推進	(ア) 行事のクラス・学年目標達成 85%以上 (イ) 個人目標の達成 85%以上	◎ ◎	
	② 地域の高等学校との授業や部活動等の交流を活性化	(ア) 都立久留米西高等学校等との交流実施 18 回以上 (イ) 交流校生徒からの障害理解や必要な支援理解について意見集約と分析実施 (ウ) 交流校教員からの障害理解や必要な支援理解について意見集約と分析実施	◎ ○ ○	生徒の感想集約は後半試行的に実施 ハード面の改善と一定数の教員の理解が進む
	③ 生徒会活動を活性化	(ア) 昼休み放送など生徒会提案活動の実施	◎	
	④ 部活動を通して個性の伸長、仲間意識、協力する力の育成	(ア) 対外試合/演奏会/展示会等の実施	◎	

#### 6 開かれた学校 その他

	重点項目と方策	具体的方策・数値等目標	評価	コメント
6 開 か れ た 学 校	① 通学区域の小・中・高等学校、特別支援学校との連携強化、	(ア) 特別支援教育コーディネーターのセンタースタッフ的機能の発揮 (年間 50 回以上) (イ) 久留米西高等学校や久留米中学校区の連絡協議会等への参加 4 回以上 (ウ) 上級学校訪問 10 回以上	◎ ◎ ◎	
	② 特別支援教育の理解啓発	(ア) 学校公開、授業参観等来校者 各 100 名以上	◎	
	③ 地域の福祉課や家庭支援センター等の関係機関と連携強化	(ア) コーディネーターや進路指導部と関係機関との情報交換・機関連携 12 回以上	◎	
	④ 学校生活支援シートの活用による関係機関と連携した支援体制	(ア) 引継ぎ実施: 出身校全校 (イ) 支援連携支援会議: 必要生徒 100%	◎ ◎	

の構築	(ウ) 移行支援連携：高3全員	◎	
⑤ 職能開発科説明会の充実および地域中学校等への理解推進	(ア) 学科説明会年間参加者 700 名以上 (イ) 入学者選考倍率 1.25 倍以上 (ウ) 中学校等訪問5校以上	◎ ◎ ◎	
⑥ 学校Webサイトの更新や様々な広報ツールを活用し、積極的な情報発信	(ア) Webサイトの更新 年間180回以上	○	160回ほど更新

## II 令和8年度以降の課題と対応策

### 【課題の概要】

校訓「知：学び続ける 仁：思いやる 勇：行動する」のもと、生徒が自分らしさを発揮する学校づくりを継続発展できた。学校評価において、保護者から肯定的評価が平均90%以上となり、開校以来一番良い評価を得た。

前年度からの課題を受け、令和7年度に普通科の類型化改善、時間割の改善を計画的に議論し、令和8年度からの変革に至った。また、現場実習と授業をつなぐ進路個人ファイル（キャリアパスポート）の見直しを行った。

令和8年度は、開校6年目を迎える。本校黎明期を築いた教職員の入れ替えが本格化する。このことを踏まえ、今年度、分掌業務のマニュアル作成、学習指導要領と年間指導計画の整合性の検証、指導案・教材の共有化を実施した。また、人事異動を計画的に実行した。

令和8年度は、今年度準備した授業、実習、分掌等の計画を、入れ替わる人事のもとで実施・検証し、さらなる改善を図ることが課題である。また、目指す学校「くらす力 働く力 関わる力を育てる学校」の実現に向け、キャリア教育のさらなる充実と、共生社会に向けて、高校等との協働学習の在り方の実践研究を継続する。

本校の変化の時期をチャンスと捉え、開校10周年にあたる令和13年（2031年）のあるべき学校像に向けて始動する。

### 【対応策の方向性】

令和7年3月に策定された東京都教育施策大綱を踏まえ、「誰一人取り残さず、すべての子供が将来への希望を持って自ら伸び、育つ教育」を実現すべく、目指す学校「くらす力 働く力 関わる力を育てる学校」を推進する。

そこで以下の対応策を、令和8年度の学校経営を行っていく。

#### 1 魅力ある教育課程の構築と実践

- ・知的障害特別支援学校高等部単独校として、将来と授業をつなぐキャリア教育の充実
- ・作業学習、職業に関する専門教科において、働く態度の育成の実践研究
- ・共生社会の実現を目指した地域の高校等との協働学習の充実

#### 2 「人」を中心とした学校経営

- ・「生徒が自分らしく輝く学校」を標榜するとともに、保護者・教職員・近隣を含む関係各位との連携促進
- ・「みんなのための働き方改革」やコンプライアンスを担保した職務遂行の推進
- ・計画的な人事異動の実施

#### 3 予算編成と執行の適正化

- ・必要なランニングコストを担保した上での、予算編成における選択と集中の実施と適正な執行
- ・段階的な備品の整備等、中長期的な視点での教育環境の充実
- ・緊急対策予算の確保